

「ベスト実践集 (1997)」に見るカンザス州 (米国) の カウンセリング プログラムの開発

青木 多寿子
(2007年2月28日受理)

Analyses of Curriculum Developments in “Kansas Comprehensive School Counseling Program (1997)”

Tazuko AOKI

This study was analyzed how the state department of education developed curriculum in the “Kansas Comprehensive School Counseling Program; Best Practices an Addendum to the Model and Guidelines (1997)”. I found some features in guidelines; they consist of itemized sentences, every sentence has its own number, the numbers make a three tiered construction and every item is numbered according to importance. I found some features in the best practical models part, too. They are as follows; every practice is a single page and every practice follows the same format. The format includes the correspondences to counseling guidelines and are shown with guideline numbers, the outline of each practice, how many classes each practice is expected to take what materials are needed, how to contact the practice teacher and additional comments from the teacher. I discuss these materials in the point of view of those curriculum developments changing actual practices into immediate impact information to support teachers.

Key words: Counseling programs of best practices, Curriculum developments, Guideline, the format gathering practices.

1999年から2002年にかけて、アメリカ中部に位置するカンザス州、ブルーバレー学区の学校や教育委員会、シャウニーミッション学区の高校を訪問する機会を得た(青木; 1999, 2001, 2002)。カンザス州は本来、教育熱心な州であり、中でも上記の学区は、特に教育熱心な学区であると後から知った。訪問してみた際、確かに生徒の規律正しさ、教師間のチームワークの良さ、授業の洗練性、先進性などに感心した。しかし特に感心したのは、教師の持つ教育教材の種類の多さである。アメリカの教師が持つ教育教材の豊富さは、カンザス州だけでなく、イリノイ州でも、ノースカロライナでも感じたことである。お聞きしたところによると、市販の教育教材も多いが、

教師達が学区をあげて作成している教材、学校で作成している教材も多くあるという(Fig. 1)。そしてこの学校や学区の教育委員会で作成する資料や教材も、市販の教材²もA4に統一されたシステム手帳式の教師用教材を作成している場合が多い。これは外せばコピーしてそのまま使えるような資料にもなるし(Fig. 2)、訂正があればそこだけ差し替えることが可能であり、追加があれば加えることができる。教育委員会の教材ファイルに市販のファイルや自分が作ったファイルを差し込むこともできる。1つのバインダーにいろんなものを保管できるシステムは、ノートや本を主体にした日本の教育にはない実践性を備えた教材であると感じた。

- 1 ノースカロライナの小学校でお聞きしたところによると、教師は一人当たり年間1～2万円くらい、自由に教材に使える研究費を持っているという。この教師達が自由に使えるお金の存在が、豊かな教育教材産業を作っているのではないかと感じた。
- 2 製本されず、A4版の紙に印刷された形のままの教材も多種多様に存在する。個人が作った教材をネットで検索して購入できるものもある(Fig. 3)。

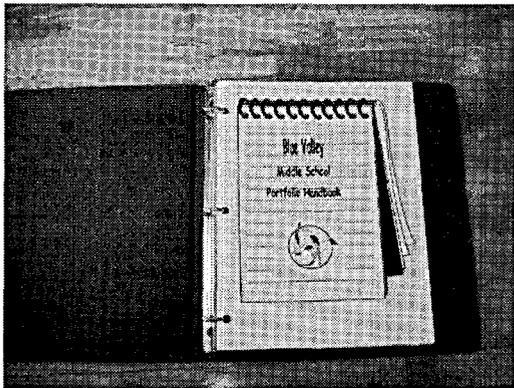


Fig. 1 学区で作成した教材例。
(注) これはポートフォリオの作成の指導の仕方を示したもの

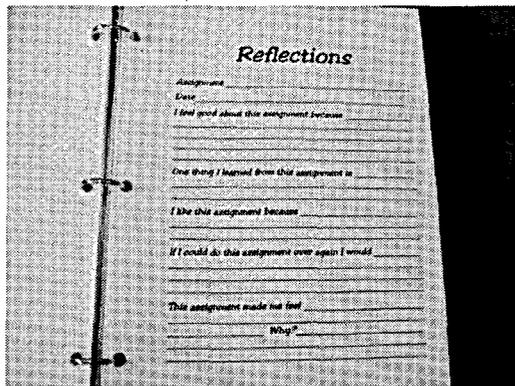


Fig. 2 コピーすれば使える教材の例
(注) これはFig. 1の内容の1部

本稿は、著者が入手したカンザス州の州教育委員会が作成した「カウンセリングプログラムのベスト実践集」をとりあげ、アメリカのプログラム開発、カリキュラム開発の方法を紹介する。この資料は、私がブルーバレー学区の教育委員会を訪問した際、スクールカウンセラーの方から、「前バージョンなので、今は使っていないから」と頂いたものである。この資料を詳しく紹介することで、アメリカの学習開発がどのようになされているかを紹介したい。

ところで日本で「カウンセラー」と言うと、週に1度くらい派遣されてくる心の悩みの相談を種としている職種で、授業を担当しないという概念が強い。しかし、このカンザス州のスクールカウンセラーの仕事は、学校に常駐し異なる仕事にたずさわっている(青木, 2006)。アメリカでのスクールカウンセラーの仕事は、「人格・社会的領域」「学習領域」「キャリア発達領域」の3本柱であり、日本のように、心の悩み相談だけを行っているさ

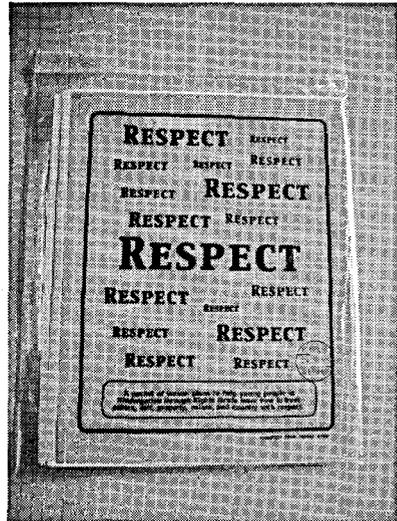


Fig. 3 ネットで購入できる教材の例
(注) 左側にパンチで穴をあければ他の教材と合わせてとじることができる

けではない。さらに、全クラスを対象に、上記の仕事を遂行するため授業を持っている。私がお聞きした時点では、ブルーバレー学区の1つの小学校では2週間に1回、20分の授業を担当しているとのことだった。まず、この日米のカウンセラーの仕事の違いを念頭において本稿を読んでいただきたい。

1. ベスト実践集の構成

スクールカウンセラー達が持っているベスト実践集は具体的には Table 1 のような内容になっている。

Table 1 ベスト実践集の目次

	① 前書き
	② 目標と期待させる効果
ガイド ライン	③ 人格・社会発達支援領域
	④ 学習支援領域
	⑤ キャリア発達支援領域
実践集	⑥ 小学生の活動
	⑦ 中学生の活動
	⑧ 高学生の活動

(注) 番号は説明のために著者が振った

このカリキュラムには、具体的には2つの部分に分かれる。一つ目は②～⑤までの州のガイドラインの部分、もう一つは⑥～⑧までの、具体的な実践集である。②は、③～⑤に示す具体的なガイドラインの簡易版である。ここでは、Table 2 に全訳を示した。また、③～⑤までの、州が示したガイドラインの部分は、資料1

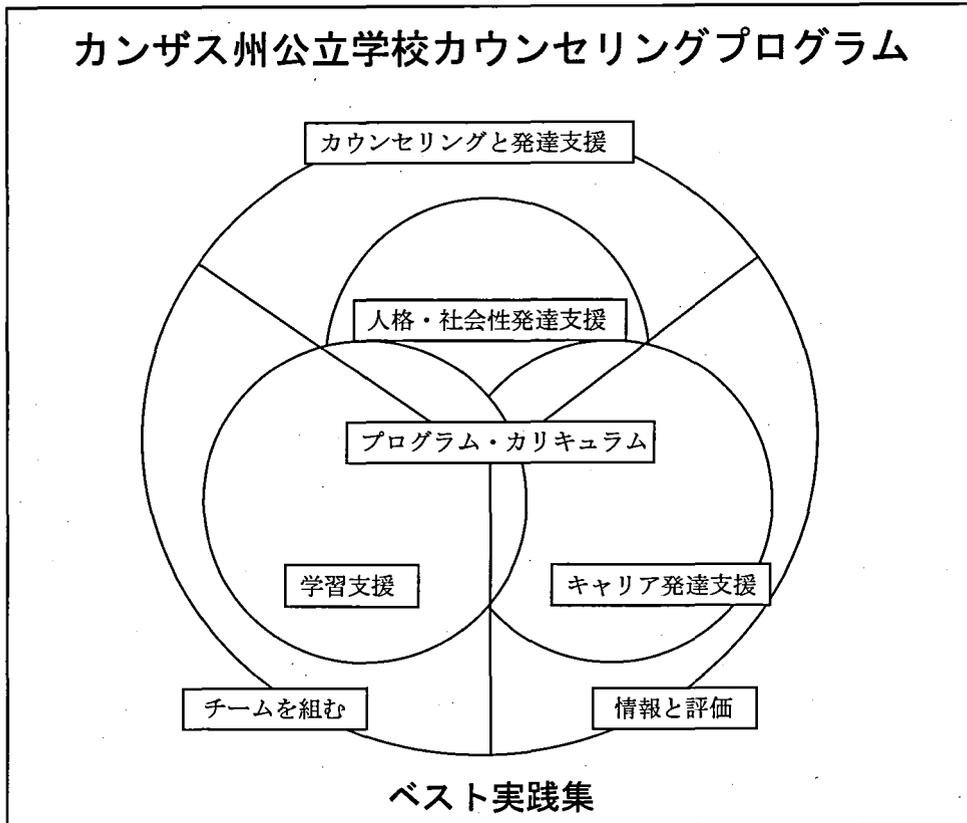


Fig.4 カウンセリング プログラムの表紙

に全訳を表にまとめて示す。

表紙 Fig. 4はこの実践集の表紙を訳したものである。この表紙の図を見るといくつかのことがわかる。まず、カウンセリングのプログラムの内容には、同じくらい重要な領域が3つあることが図を見ただけ把握できる。その3つとは、「人格・社会発達支援」「学習支援」「キャリア発達支援」である。次に人格・社会的な発達に関しては、「カウンセリングと発達支援」、学習発達支援については「チームを組むこと」、キャリア発達支援については「情報と評価」と、それぞれの領域の目標が端的に記しされている。この部分を見ると、カウンセリングと発達支援は、個人の人格発達を促すだけでなく、社会発達を促すことを目指していること、学習支援とは、勉強を支援するだけでなく、チームの一員として役に立つこと、他者と力を合わせることに力点がおかれた教育であり、キャリア発達とは、職業体験と言うよりは情報収集や仕事の評価をすることを

目指すものであることがうかがえる。このように全体の概念を一目瞭然と理解させる図の上に、各領域名と目標を1つ書くことで、表紙を見ただけで、学校カウンセリングが何を目指しているものかが、誰にでもわかるようになっていく。

2. ガイドラインについて

ガイドラインとは日本の学習指導要領に相当するものと思われる³。しかし内容の文面は日本の学習指導要領と違って次のような特徴を持っている。それは、①すべてが箇条書きで番号が付いていること、②一つの文章には一つの要素しか記載されていないこと、③大見出し、中見出し、小見出しの3段階構成になっていること、④小見出しは、番号の上位ほど重要性が高いと思われること、である。Table 2にはTable 1のガイドラインの中見出し部分の骨子、Table 3にはそれぞれの小見出し部分の下位目標の一部を示して、カウ

3 アメリカのガイドラインは学習指導要領のような法的な拘束力は無いと聞く。ただ、ガイドラインに従わないと補助金を出さない、など、ある意味の拘束力はあるという。

ンセリングに関するカリキュラム構成を具体的に解説する。

まず、Table 2 のガイドラインの概要について考えてみる。これを見ると、「1. 人格・社会的発達支援領域」には 1.1~1.6 の 6 つ、「2. 学習支援領域」には 2.1~2.3 までの 3 つ、「3. キャリア発達領域」には 3.1~3.5 までの 5 つの目標があることがわかる。大見出しについての番号が、中見出しの前半についてこの番号の振り方は、番号を見ただけで、領域が特定できる。さらにこの番号は、義務教育 13 年間*共通である。番号を見れば内容のわかるこの仕組みは、これはとても合理的で便利な方法だと感じた。

つぎに Table 3 の見ていただきたい。これは、資料 1 のカリキュラム表から、日本では余りにしない「1.6 自分や他者の責任を果たす」という、責任について教える部分とキャリア教育に関する内容の中から「3.3 キャリア上での意志決定のスキルを発達させる」の部分、小・中・高の 3 段階にわたって抜き出したものである。ここでは中見出しに次に小見出しの番号がついている。そして小見出しの番号が同じものを横断的に比較すると、小学校、中学校、高校でどのようにカリキュラムが発達しているかを比較することができる。このように、系統的な番号をつけることで簡単に内容を横断的に比較できると、小学校でやっておかなくてはならないことは何か、逆に小学校でやったことが、中学高校でどのように発展するのがよく見えてきて、教師達は自分の教育の意義を見いだ

Table 2 領域と主な目的の階層的構成と構成番号の工夫

1. 人格・社会的 発達支援領域	1.1	ポジティブな自己概念を形成しようとする
	1.2	効果的な意志決定ができる
	1.3	健康的な選択ができる
	1.4	他者に礼を尽くす
	1.5	他者と関わるスキルを発達させる
	1.6	自分や他者の責任を果たす
2. 学習支援領域	2.1	効果的な学習と学業スキルを用いる
	2.2	学習の目標を設定し押し進める
	2.3	勉強するメリットを理解している
3. キャリア発達 支援領域	3.1	仕事への積極的な態度を養う
	3.2	キャリア情報の使い方
	3.3	キャリア上での意志決定のスキルを発達させる
	3.4	人生での役割変化に気づき、理解する
	3.5	仕事を探すスキルを発達させる

4 アメリカでは幼稚園年長組から高校 3 年生までが義務教育である。ただし小学校、中学校の期間の長さは学区によって異なる。

しやすいのではないかと思える。この点、日本の記述方法は、文章で書かれているので要点がつかみにくく、上、横断的な発展が見えにくいと思える。

3. 実践集とガイドラインの関係

ガイドラインに見られる番号システムの便利さは、カリキュラムを把握する際に役立つだけでなく、実践を構成し、評価する上でも役立つ。Fig. 5 には実践集の構成を示した。

実践集は、基本的にすべて A4、1 枚に収まる形式になっている。そして、その形式はすべて Fig. 5 に示す構成に統一されている。加えて実践によっては、Fig. 2 に示したような、授業の資料として、コピーすれば使える様式がついている。つまり、実践集は、個々の教員の優れた実践をデータファイル化したものとなっている。

次に Fig. 5, 6, 7 を用いて、実践集の見方を説明する。まず、Fig. 5 について解説する。実践のタイトルが一番上に来る。次に資料 1、Table 2, 3 に示した領域が来る。これで、カウンセリングのどの領域に関わる実践かがすぐにわかる仕組みになっている。②では、対象年齢、この実践を行うのに必要な時間を明記する。③では、この実践を行うのに必要な材料、手続き、教示の仕方を書くことになっている。④には、手続きや方法には表せない発展事項、注意事項などが書かれている。⑤ではこの実践にした本が紹介され、⑥には実践者の連絡先が書かれている。つまり、この実践の形式は、日本の学習指導要領に似ていると言うよりは、理科の実験の表記の仕方に似ている。道具、教示、引用文献、連絡先を書き、場合によってはコピーするだけで使える資料を添付することで、優れた実験がすぐに誰にでも行えるように、再現可能性を高める表記となっている。

実践集には約 50 の実践が紹介されている。Fig. 6, 7 では、日本で実践の少ないキャリア領域を取り上げ実践を紹介した。ここでは Fig. 6 に従って小学校の実践を見てみたい。

この実践集を見ると、次のことがわかる。活動の名前は「仕事の探索と説明」。領域はキャリア領域。ガイドライン上の大きな目標は「3.2；職業に関する情報を使うスキルと発達させる」であり、実際に使う能力は、さらに下位目標の「3.2.3；さまざまな仕事について説明する」である。ここにガイドラインとの対応が明確に示しているところが、何を育もうとする実践

なのかわかりやすく評価しやすい。

次にセッションの長さ、対象年齢、教師が準備しなくてはならない材料が明記されている。

次には活動内容の解説がある。日曜日の職業欄の新聞を生徒に持ってこさせて、すべての職業を探して印を付ける。そして興味あるものについて、必要な教育、仕事の内容、給料、使う道具やスキル、資格等々について調べることがわかる。

コメント欄には、「もう少し時間があれば、子ども達が項目ごとに図表やイラストを描いたり、仕事できる服を展示したりできるでしょう」とさらに発展させるにはどうしたらよいかを記している。そして最後に、さらにこの実践を詳しく知りたい人のために、参考図書、連絡先が明記されている。

アメリカでは、中学になると選択科目が多くなり、

高校では日本の大学に匹敵するくらいの選択科目が存在する（青木、2007）。選択科目を選ぶためには、どの職業にはどのような学歴や資格が必要なのかを知っておく必要があるし、自分で調べる能力を付ける必要がある。小学校のこの活動は、自分のキャリアを発達させる授業でもあるが、中学、高校での選択科目を自分で決定させるための前準備でもあることがうかがえる。

最後に、カンザス州のスクールカウンセラー達が持っているベスト実践集は、優れている点をまとめてみる。それは、①実践と州のガイドラインの対応が明確であること、②セッションの長さが書かれていること、③教師が準備しなければならない材料の明記があること、④手続きが記されており、さらに発展させるヒントが書いていること、⑤参考文献が1冊記されている

Table 3 ガイドラインの細部の構成

小学校	中学校	高校
1.6.1. 自分の行為についての責任を示す	1.6.1 自分の行為についての責任を示す	1.6.1 自分の行為についての責任を示す
1.6.2. どう行為するかを選択肢をふやす	1.6.2 様々な状況で、責任ある行為が何かわかる	1.6.2 様々な状況で、責任ある行為が何かわかる
1.6.3. 他者に向けた自分の行為の原因と結果を表現する	1.6.3 他者に向けた自分の行為の原因と結果を表現する	1.6.3 他者に向けた自分の行為の原因と結果を表現する
1.6.4. 責任感があるとはどういうことかを表現する	1.6.4 自分自身への信頼を増加させる 1.6.5 責任を持つことがいかに人生を充実させるかを説明する 1.6.6 自分の行為と決定の結果を引き受けることを表現する	1.6.4 自己のコントロールと自分への信頼を持つ 1.6.5 自分の決定、自分の行為、そして個人的な成長への責任を引き受ける 1.6.6 他者に対して、建設的な批判を与える
3.3.1. 人は、キャリアについての意志決定をしていることに気づく	3.3.1 いくつかのキャリアをどう準備したらよいかを話せる	3.3.1 興味のあるキャリアについて、準備の仕方を話せる
3.3.2. 何をすることが好きなのに気づく	3.3.2 キャリア上での意志決定で、選択肢があることに気づく 3.3.3 自分の興味と能力がキャリア選択にどのように役立つか気づく 3.3.4 将来のプランを立てることの重要性に気づく 3.3.5 一時的なキャリアと教育の目標をに気づく 3.3.6 自分の興味と能力、キャリアのゴールにあった高校のコースに気づいて選択する	3.3.2 意志決定状況で、特殊なキャリアでは選択肢があることに気づく 3.3.3 自分の興味、能力、価値に気づく 3.3.4 自分についての情報を基礎に、キャリアのプランを発達させる 3.3.5 他者の期待が、いかにキャリアのプランに影響するかに気づく 3.3.6 キャリアの選択、訓練、仕事条件に影響する仕事の特徴に気づく 3.3.7 キャリアの選択が、自分の人生の選択に影響をする仕方に気づく 3.3.8 高校卒業後の進学、就職への移行へのステップを理解し、遂行する 3.3.9 よいキャリア選択の仕方を知っており、実行する 3.3.10 キャリアの発達は、継続的なプロセスであることに気づく

こと、⑥実践者名と連絡先が記してあること、である。参考文献は多すぎると読む気をなくさせるに違いなく、全くなければ関連の資料を調べることもできない。また、連絡先があれば、詳しく聞いてみたいことについて、すぐに連絡を取って問い合わせることができる。加えて⑦すべてがA4、1枚に納めるデータベース方式になっており、コピーすればすぐ使える資料も付いているので、とても活用しやすいこと、⑧最初に戻るが、ガイドラインが3段階見出しの構成になっているので、自分の生徒に不足している能力を補おうと考えたとき、番号を探してゆけば関連の実践を探せるので

便利であること、などがあげられよう。

カンザス州の教育委員会が作成した検索できる形式のデータベース化されたベスト実践集、日本にも新しい教育の指針を作るとき、指針だけでなく、データベース式の検索可能な実践を、指針との対応がすぐわかる形にして同時に示せば、新しい教育方針も教育現場になじみやすいのではなかろうか。カンザス州のベスト実践集を見て、アメリカでの新しい教育方針が裾野に広がる早さの秘訣、各教師達が、新しい自分の実践に自信を持って取り組んでいる秘訣をかいま見たような気がした。

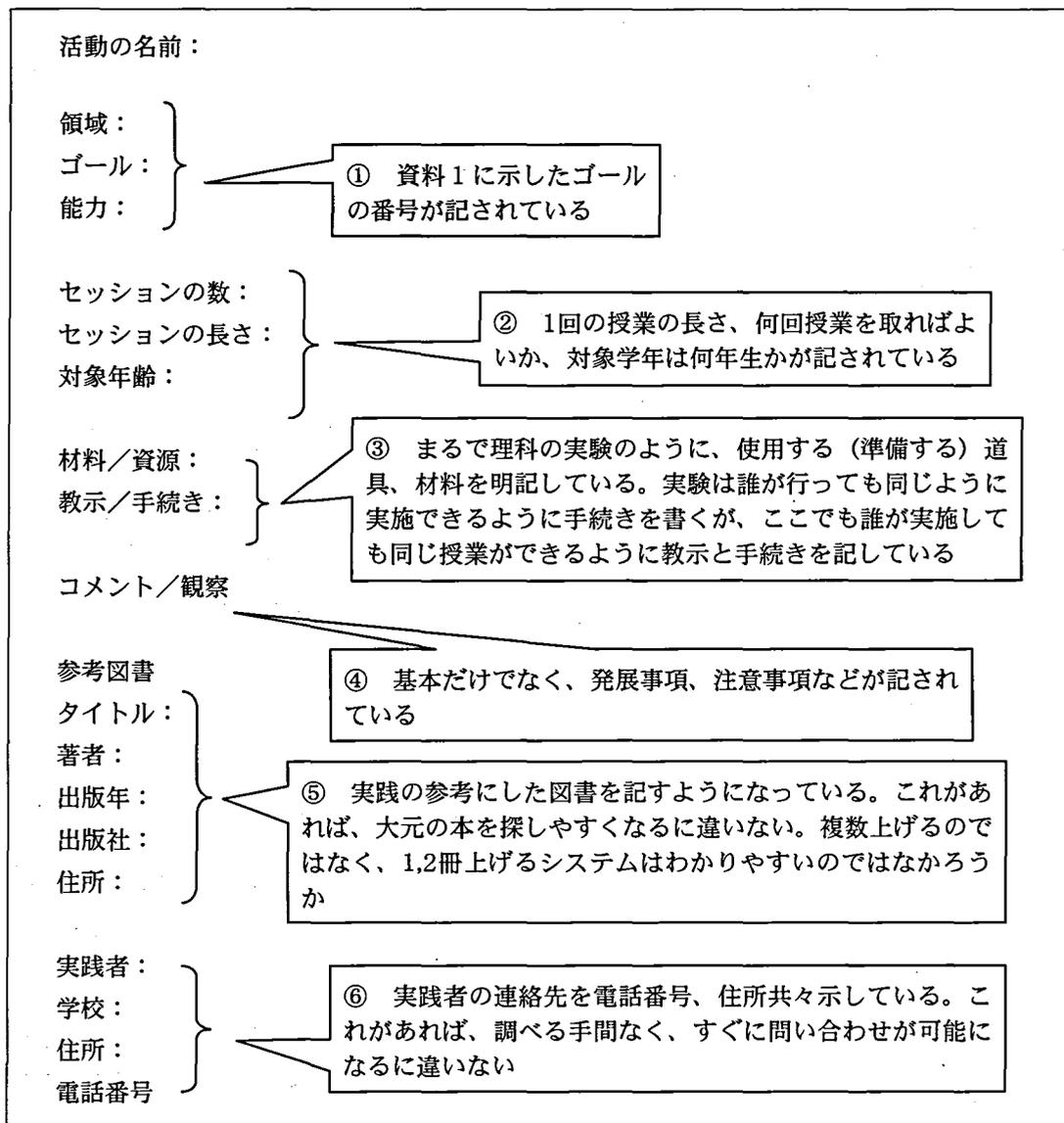


Fig.5 実践集の形式

活動の名前：仕事の探察と説明

領域：キャリア発達支援

ゴール：3.2 職業に関する情報を使うスキルを発達させる
能力：3.2.3. さまざまな仕事について説明する

セッションの数：2回
セッションの長さ：おのおの1時間
対象年齢：5.6年生

材料/資源：①子ども一人、またはペアで日曜日の新聞1頁。
②ラインマーカー
③職業が見出しになった辞典
④職業の概略が書いた本

指示/手続き：①新聞を見て、すべての職業を探してラインマーカーで印を付ける。
②最も興味のあるもの（または、子どもが興味をもちそうなもの）について5つ取り上げる。
③辞書や仕事を説明した本で1つについて、次の事柄を調べる。a) 必要な教育、b) 仕事の義務、c) 給料、d) 制服、e) 使う道具や仕事のスキル、f) 屋外労働、屋内労働、事務室、大都市かなど、働く場所、g) 特殊な資格（試験、実技試験、など）。
④発見したことを、クラス全体で報告する。

コメント/観察
もう少し時間があれば、子どもたちが、項目ごとに図表やイラストを描いたり、仕事で着る服を展示したりできるでしょう。

参考図書
タイトル：カンザス州の進路指導実践集
著者：カンザス州・カンザス州進路指導協会
出版年：1983年
出版社：ウィチタタ公立学校出版社
住所：北エンプリア、ウィチタ、カンザス州

実践者：ナンシー シュレル
学校：グリーン小学校
住所：830 フォース クレー センター カンザス州
電話番号：

Fig. 6 ベスト実践集の具体例（小学校編；キャリア発達支援領域）

活動の名前：仕事仲間

領域：キャリア発達支援

ゴール：3.3. 意志決定スキルを発達させる
能力：3.3.3. 自分の興味と能力を自覚し、それらがどのような職業の選択に役立つかを考える。

セッションの数：6回
セッションの長さ：1時間
対象年齢：中学2年生

材料/資源：興味ある発明品、交通機関、支持的な行政機関とそのスタッフ、快く協力してくれる商店組合、興味を持っている経界の人、評価のための道具

指示/手続き：6週間の進路指導の中で、各生徒は興味深い発明品を管理する人となる。発明品から得られた情報を使い、生徒は自分が興味を持った3つの仕事を選ぶ。教師は生徒の興味と能力にあつた仕事を選ぶことができるように気を配る。快く時間を割いてくれ、商店組合の中に興味のある学生と一緒に作業をしてくれる人を捜す。

教育委員会は、商店組合と一緒に働くだけでなく、商店組合の地域コーディネーターと一緒に働く。学校は生徒への、また職場への交通手段を確保する。学校は、関わった生徒によるプログラムの評価を行う。商店組合の組合員は、このプログラムを評価する。二つのグループは一緒に働き、このプログラムを継続的に更新し、改良する。

実践者：ダン ワイズ
学校：Colby 中学校
住所：850 W. 3rd Colby 中学校
電話番号

Fig. 7 ベスト実践集の具体例
（中学校編；キャリア発達支援領域）

引用文献

- 青木多寿子 1999 「アメリカの小学校ー The basic school 実践校のケースレポート」岡山大学教育学部 附属教育実践総合センター研究年報、第2号、11~20.
- 青木多寿子 2001 「アメリカの学校に見る児童・生徒によるボランティア活動ーカンザス州ブルーバレー学区、シャウニーミッション学区でのケースレポート」岡山大学教育学部研究集録 第118号、151~156.
- 青木多寿子 2002 「アメリカの小学校に見る品性徳目教育とその運用」岡山大学教育実践総合センター 紀要 第2巻、47~59.
- 青木多寿子 2006 「カンザス州（米国）で見たスクールカウンセラーの活躍；小学校編」岡山大学教育実践総合センター紀要 第6巻、119~129.
- 青木多寿子 2007 「ブルーミントン北高校のカリキュラムから見たアメリカの高校教育：多様性の大きさと専門性の高さについて」兵庫教育大学連合大学院 教育学研究科 プロジェクトE 「教育実践学の理論構築及びモデル研究」、82~92.
- Kansas Comprehensive School Counseling Program; Best Practices an Addendum to the Model and guidelines. 1997 Editing by Kansas School Counselors Association in Collaboration with The State Department of Education.

カンザス州カウンセリングプログラムのモデルとガイドライン (ゴール)

児童・生徒は・・・するようになる。

	小学校	中学校	高校
1.1. 自己概念が形成される	1.1.1. 人格的な強さと弱さを表現する 1.1.2. 肯定的なメッセージと否定的なメッセージの影響に気づく 1.1.3. 肯定的なメッセージを表現する 1.1.4. 他人の持つ強みと弱みを表現する	1.1.1. 場所を認識し、弱みに気づく 1.1.2. 場所を認識し、弱みに気づく 1.1.3. 場所を認識し、弱みに気づく 1.1.4. 場所を認識し、弱みに気づく 1.1.5. 場所を認識し、弱みに気づく 1.1.6. 場所を認識し、弱みに気づく 1.1.7. 場所を認識し、弱みに気づく	1.1.1. 個人的人格的な価値をわかろうとすること 1.1.2. 個人的人格な価値をわかろうとすること 1.1.3. 個人的人格な価値をわかろうとすること 1.1.4. 個人的人格な価値をわかろうとすること 1.1.5. 個人的人格な価値をわかろうとすること 1.1.6. 個人的人格な価値をわかろうとすること 1.1.7. 個人的人格な価値をわかろうとすること
1.2. 意志決定の基本的なステップを知っている	1.2.1. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.2. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.3. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.4. 意志決定の基本的なステップを知っている	1.2.1. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.2. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.3. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.4. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.5. 意志決定の基本的なステップを知っている	1.2.1. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.2. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.3. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.4. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.5. 意志決定の基本的なステップを知っている 1.2.6. 意志決定の基本的なステップを知っている
1.3. 健康的なライフスタイルを知っている	1.3.1. 「良いガッツ」 「悪いガッツ」の違いがわかる 1.3.2. ある薬は健康的で、他は健康に害があることを説明する 1.3.3. 健康的なライフスタイルについて述べる 1.3.4. タバコとアルコールのネガティブな影響を明確に知っている 1.3.5. 物質を用いた健康的なライフスタイルの方法を知っている 1.3.6. 大人が助けてくれる状況や助けてもらう方法を知っている	1.3.1. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.2. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.3. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.4. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.5. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.6. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.7. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.8. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する	1.3.1. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.2. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.3. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.4. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.5. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.6. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.7. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する 1.3.8. 適切な健康法、衛生法を個人で実行する
1.4. 他人に礼儀を表現する	1.4.1. 他人に礼儀を表現する 1.4.2. 他人に礼儀を表現する 1.4.3. 他人に礼儀を表現する 1.4.4. 他人に礼儀を表現する	1.4.1. 他人に礼儀(敬意)を示す 1.4.2. 他人に礼儀(敬意)を示す 1.4.3. 他人に礼儀(敬意)を示す 1.4.4. 他人に礼儀(敬意)を示す	1.4.1. さまざまな状況で、他の人に礼儀(敬意)を示すことができる 1.4.2. 他人の礼儀(敬意)を示すことができる 1.4.3. 他人の礼儀(敬意)を示すことができる 1.4.4. 他人の礼儀(敬意)を示すことができる 1.4.5. 他人の礼儀(敬意)を示すことができる
1.5. 他人の感情を表現する	1.5.1. 感情を明確に伝えることができる 1.5.2. 感情を明確に伝えることができる 1.5.3. 感情を明確に伝えることができる 1.5.4. 感情を明確に伝えることができる 1.5.5. 感情を明確に伝えることができる	1.5.1. 感情を表現できる 1.5.2. 感情を表現できる 1.5.3. 感情を表現できる 1.5.4. 感情を表現できる 1.5.5. 感情を表現できる	1.5.1. 人の感情に基づいて、効果的な行為が取れる 1.5.2. 他人の感情に基づいて、効果的な行為が取れる 1.5.3. 他人の感情に基づいて、効果的な行為が取れる 1.5.4. 他人の感情に基づいて、効果的な行為が取れる 1.5.5. 他人の感情に基づいて、効果的な行為が取れる
1.6. 自己責任を表現する	1.6.1. 自己責任を表現する 1.6.2. 自己責任を表現する 1.6.3. 自己責任を表現する 1.6.4. 自己責任を表現する 1.6.5. 自己責任を表現する 1.6.6. 自己責任を表現する	1.6.1. 自己責任を表現する 1.6.2. 自己責任を表現する 1.6.3. 自己責任を表現する 1.6.4. 自己責任を表現する 1.6.5. 自己責任を表現する 1.6.6. 自己責任を表現する	1.6.1. 自己責任を表現する 1.6.2. 自己責任を表現する 1.6.3. 自己責任を表現する 1.6.4. 自己責任を表現する 1.6.5. 自己責任を表現する 1.6.6. 自己責任を表現する

